

保利茂（ほりしげる）（1/2）

～誠をつくした人～

明治34年（1901年）、松浦川に臨み、山々に囲まれた、唐津市山本の貧しい農家に茂は生まれました。小さいころから、母を助けて働きました。そのころ蚕を飼っている家にえさとなる桑の葉をつんで届けたり、農作物を行商する母といっしょに荷物を運んだりと働きながらよく勉強もしました。昔、二宮尊徳という薪を背負い、本を読んで歩きながら勉強している人がいましたが、まさにこの人のようにだったと当時のことを知っている人は話しています。

鬼塚高等小学校を卒業して、「唐津鐵工所」に勤めることになりました。鐵工所では仕事の後に、勉強する時間がきめられていました。英語、物理、工作、製図などをここで学びました。

後に中学校卒業の資格を得るための検定試験に合格し、中央大学の経済学科（夜間）に学びました。昼間の仕事と勉強のため大変だったことでしょう。それでも一生懸命がんばりました。知り合いの人に英語や数学を教えてもらう約束をし、その人が仕事から帰ってくる時間には家の前で待っていました。「茂が毎日家の玄関先で待っているの、お酒を飲んで遅く帰るわけにはいかず、困ったよ。」と、その人がいつも笑いながらいうほど、茂は熱心に勉強しました。

中央大学を卒業したあと、約10年間、新聞記者として働きました。言葉をきびしく選び、事実に忠実な記事を書きました。犬養毅を訪ねて書いた「木堂（犬養毅の号）清談」というタイトルの記事は、毎日新聞にのせられましたが、茂の人柄や、記者としての姿勢がよくわかるものでした。すばらしい記事だと、高い評価を受けました。

昭和9年（1934年）に、請われて大臣の秘書官となりました。大変な仕事で、大臣の陰にいろいろな仕事をするのです。自分の事は後まわしにして、大臣のために働きました。

10年後、昭和19年、選挙に出て、初当選し、自らも衆議院議員となり政界入りをはたしました43歳でした。

その後は労働大臣、農林大臣、建設大臣、官房長官などの要職につき、昭和51年には衆議院議長に選ばれました。

重厚で老練な政治家といわれていた茂に最もふさわしいポストが与えられたのです。国会運営に全力を尽くし、公正で、おだやかな国会運営に努力しました。

茂の誠実な生き方は、多くの人々の信頼を受け、「名議長」といわれるようになりました。

～2/2へつづく～

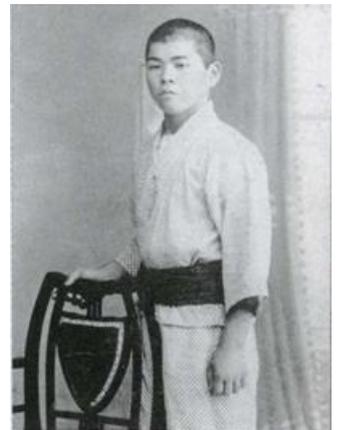
分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



保利茂
(1901～1979)



14歳頃の保利茂
(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

保利茂（ほりしげる）（2/2）

～誠をつくした人～

～1/2からつづく～

残念なことに、重い病気になり、昭和54年2月議長を辞任し、3月に多くの人に惜しまれながら77歳で亡くなりました。

作家の井上靖は「古武士のような保利さんを信じ、尊敬する」と茂の事を評しています。迫力があるけど、本当にまじめで、正直な人でした。唐津出身の政治家として愛されただけではなく生き方に心を引かれた人も多かったのです。義理を重んじ、筋を通し、裏方に徹する生き方は、多くの人々の信頼を得ました。

はうように大地に根ざし、節くれだってゴツゴツして曲りくねっているがどっしりと安定感があり、何か見ている人に愛着を持たれる松、「磯馴れの松」のような茂。ふるさとの唐津に帰ってくると、いつも大きなげたをはいて街の中を歩いていました。にこにこしながら、太い手で子ども達の頭をなでながら、「勉強しているかい」と話しかけていた姿が今も目に浮かびます。

茂と夫人の歌碑が唐津市養母田の春日神社の境内につくられています。

人の世の 人の情に 生きるわれ
人の世の為 まこと つくさむ

分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



磯馴れの松の写真



茂と夫人の歌碑

（『郷土につくした人々』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html